

堺市市民交流広場活用プロジェクト



DATA

- 主な連携先・メンバー
堺市／堺まちづくり株式会社／佐治倶楽部／おおさか河内材販売促進協議会／関西大学建築環境デザイン研究室 他
- 活動地域
大阪府堺市(堺市市民交流広場 Minaさかい)
- 活動期間
2016年度～継続中
- 活動資金
堺市と関西大学との地域連携事業

活動の目的

- 1 堺市市民交流広場の空間の良さを活かした広場活用提案の実践
- 2 提案実施を通じた地域の横断的なつながりを生み出すこと

連携にいたる経緯

堺市と関西大学との地域連携事業の一環で、様々な地域で空間を活かした活動を実践してきた建築環境デザイン研究室が中心となり、堺市市民交流広場の活用を考えることになった。

活動内容

2016年からスタートした活動で、1年目は広場空間の活用実験を行った。広場には常にビル風が吹き、広場空間として機能しにくい状態であることに着目し、建築環境デザイン研究室と建築環境工学部第III研究室が協働で風の調査を実施。それをもとに風を分散、弱めながら賑わい感のある広場空間を生み出すかざぐるまを使った装置を製作・設置した。2年目以降は、建築環境デザイン研究室が活動フィールドとしている地域間(堺市・丹波市・河内長野市)の人的・物的交流の機会として、広場活用イベントを開催。2019年度は、地域間交流の機会も作りつつ、日常的に憩いの時間を過ごし、時にはイベントという非日常の場の賑わいを楽しむという二元性を持たせることが、豊かな広場空間の要件であると仮説をたて、風を弱め影を作り、滞留時間を増加させるような什器(テーブル・ベンチ)を製作・設置し、観察を行う社会実験を行った。2016年から継続してきた様々な活動が積み重なり、豊かな広場空間の実現に向けて着実に歩を進めている。



活動の成果

- 1 広場空間のあり方・可能性を探る提案を実施できた
- 2 堺、丹波、河内長野の人的・物的地域間交流を実現できた
- 3 堺市の市民団体との連携を図ることができた

今後の課題・目標

- 1 日常的広場活用に向けた社会実験の継続
- 2 堺市の地域団体や近隣商店街との連携
- 3 堺から丹波市へ、相互交流の創出

教員紹介



■ 環境都市工学部 教授

江川直樹
Naoki Egawa

1951年三重県生まれ。74年早稲田大学理工学部建築学科卒、76年同大学院修士課程修了。77年株式会社現代計画研究所入社、82年同大阪事務所を開設し、集住環境を中心とするデザインに取り組む。2004年に関西大学に教授として着任。多くの受賞歴がある中、2018年度には文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞した。

協働担当者紹介



■ 一般社団法人カンデ

関谷大志朗
Taishiro Sekiya

1990年熊本県生まれ。関西大学環境都市工学部建築学科卒、同大学院修了。(建築環境デザイン研究室)
卒業後は大学や行政、地域住民など様々な団体との協働による地域再生活動に取り組んでおり、現在は大阪府河内長野市南花台を主たるフィールドとし、地域再生・団地再編に取り組む。